



■ 静岡県出身 文学部 1年

若者離散率が高い静岡を、
メディアという視点から救いたいです。

Q 維持会奨学生として思うことは？

維持会奨学生に採用していただき、誇りに思うとともに、いただいた奨学金で大学生活を濃いものにしなければならないという責任感が芽生えました。授業はとても興味深く、サークル活動もとても充実しています。慶應義塾が大学として最高の環境であることをひしひしと実感しています。塾生になれたこと、さらに奨学金をいただけたことは、そのご恩の大きさから、身の引き締まる思いです。

この奨学金のおかげで私の未来の可能性が広がったことを、維持会の皆様が私にチャンスを与えてくださったのだと捉え、ずっと掲げていた夢に向かって前進していこうと思います。

Q 一番興味のある授業は？

ジェンダー論です。すべて英語で授業が進行されるため、分からない部分も多々あり、ついていだけで大変です。しかし、私のようなネイティブではない履修者と話し合ったり、周りの帰国生に教えてもらったり、授業後に先生に質問したりと工夫を凝らして学びを深めています。もっと流ちょうな英語を話したいという思いに拍車が掛かり、英語の授業では主体的になることができます。女性やLGBTの地位については、これまで漠然としか知らなかった歴史を、より詳細に学ぶことができ、とても楽しいです。

Q 課外活動で力を入れていることは？

国際協力サークルで、国際社会で活躍されている方にインタビューをして、雑誌を製作するプロジェクトに所属しています。メディア系職業に興味がある私には、とても良い機会であり、将来に生かすことができると考えています。本格的な活動は秋からですが、先日、プロジェクト主催の、難民問題に向き合う三人の女性のお話を伺うトークイベントに参加しました。今後、彼女たちのような世界の最先端で活躍されている方と関わることができると考えると、秋からの活動がとても楽しみです。そして、年代や性別に関係なく、国際問題に少しでも興味を持ち、自分に何ができるかを考えてくれるような、魅力的な雑誌を作っていきたいと思いました。

Q 慶應義塾の良いところは？

学生が何に真剣になるにも最善の環境が揃っています。授業も多岐にわたり、選択の自由も大いにあり、履修登録の際は胸を高鳴らせました。また、塾生のバックグラウンドも様々で、毎日刺激を受けています。高校生の頃は、アメリカやヨーロッパ圏の帰国生も多く、彼らに影響を受けていましたが、慶應義塾では西洋のみならず中東や中南米の帰国生もたくさんいます。アメリカやヨーロッパ圏とは一味違ったエネルギーに日々驚かされてばかりです。このように、授業のみならず、個性豊かな人に出会い、友人になれるというのが、慶應義塾の魅力だと思います。

Q 今後、学生生活でチャレンジしたいことは？

世界中を旅したいと思っています。大学生になったらバックパッカーになると決めていたので、主にアジア圏を旅し、多くの人に話しかけて知見を広げたいと思っています。日本にいるだけでは知ることができない、世界の「当たり前」を自ら動いて得ていきます。

また、メディア・コミュニケーション研究所に所属し、ジャーナリズムとは何か、そして、ローカルテレビ番組の意義について学んでいきたいです。これは私の将来の夢にもつながっているので、冬の入所試験には万全の準備をして挑みます。

Q 卒業後の進路、将来の夢は？

地元、静岡と若者を繋ぐテレビ番組を作りたいです。4年後に静岡に戻り、若者離散率が非常に高い静岡を、メディアという視点から救いたいです。上京してから、いかに静岡が素晴らしいか、身をもって感じました。ホームシックに陥った時、何度も静岡の温かさを思い出しました。今よりもさらに素晴らしい番組を作ることで、「静岡にいたい」と思う若者が増えて欲しいと思います。